

**令和元年度  
観光統計調査報告書  
(平成30年1月～12月)**

**一迫花山商工会**

# 観光統計調査報告書について

## 1. 調査分析資料

宮城県 観光統計概要 平成30年（1月～12月）

## 2. 資料について

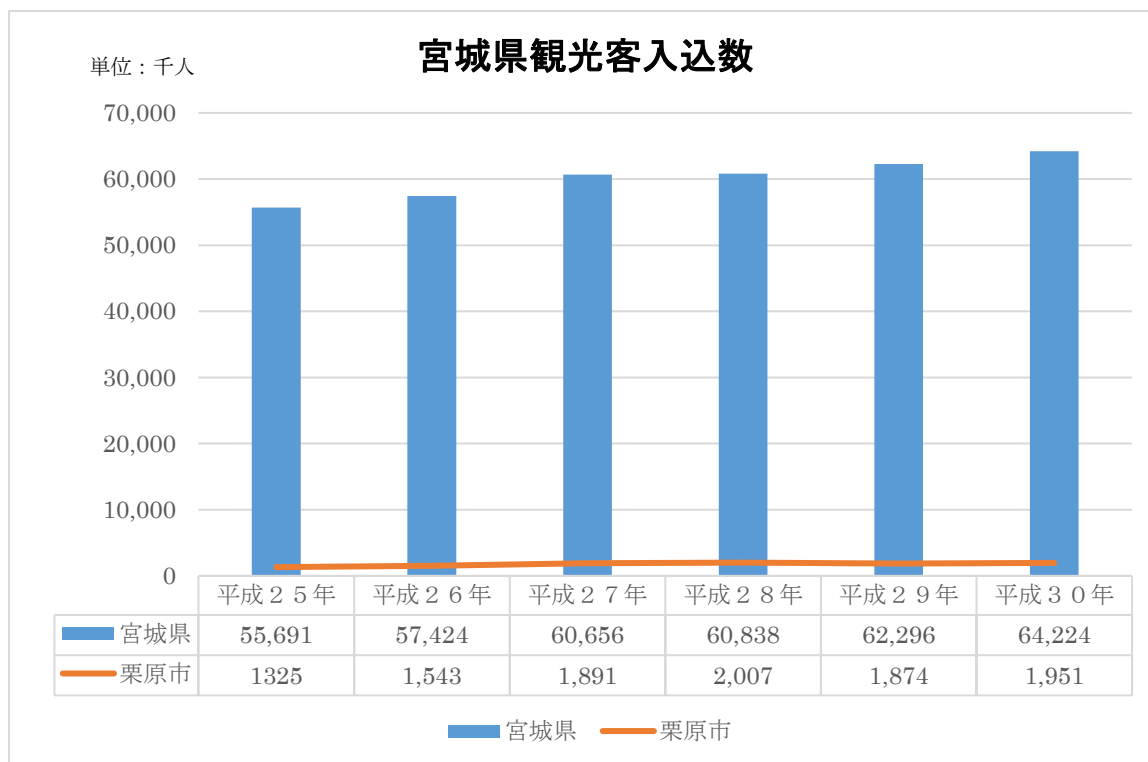
（1）県内の圏域は仙南・仙台・大崎・栗原・登米・石巻・気仙沼の7地区です。

（2）観光客入込数、宿泊観光客数は延べ人数です。

（1人が観光地点を2箇所訪れた場合や、2泊した場合は2人となります）

## (1) 観光客入込数

### ①宮城県観光客入込数



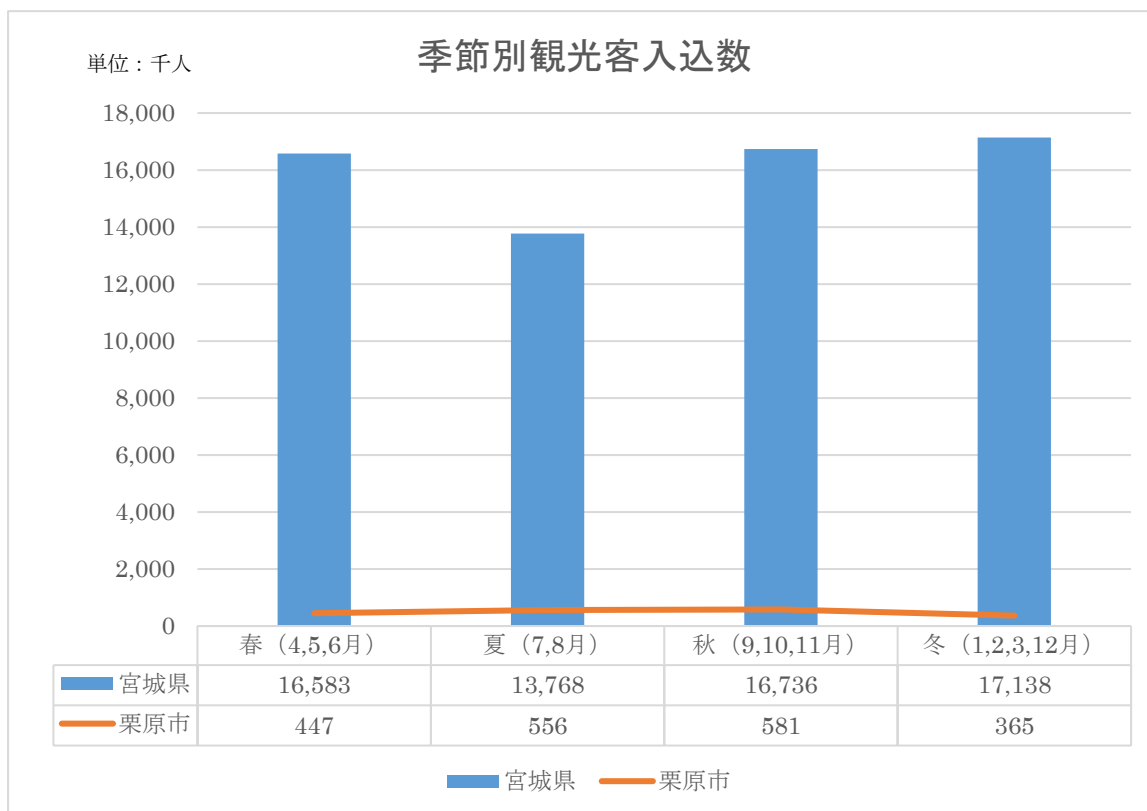
宮城県全体の観光客入込数は年々増加傾向で推移しており、平成22年に61,286千人を記録したが、平成23年に発生した東日本大震災の影響で平成23年の観光客入込数は43,157千人と大幅に落ち込む結果となった。しかし翌24年からは着実に増加していき、平成27年以降の観光客入込数は震災前の平成22年と同水準まで回復、平成29年は震災前の観光客入込数を上回っている。

平成30年は過去最高を記録した前年より1,928千人増加の64,224千人となり、好調を維持している。増加要因として夏季、冬季の観光キャンペーンの成果、新たな観光集客施設のオープンなどが挙げられている。

栗原市の観光客入込数は平成19年に1,910千人であったが、平成20年に発生した岩手・宮城内陸地震により876千人と半数以下へ落ち込んだ。しかし、栗駒山麓ジオパークが認定されたほか、栗原市の観光客入込数増加戦略等により、平成28年の入込数は市の目標観光客入込数の2,000千人を超えている。

平成30年は好天に恵まれ、入込数は前年比+77千人の1,951千人となった。

## ②季節別観光客入込数



宮城県の季節別観光客入込数は前年と比べ、通年で増加した。増加数は春季+264千人、夏季+358千人、秋季+992千人、冬季+314千人と秋季で特に増加した。

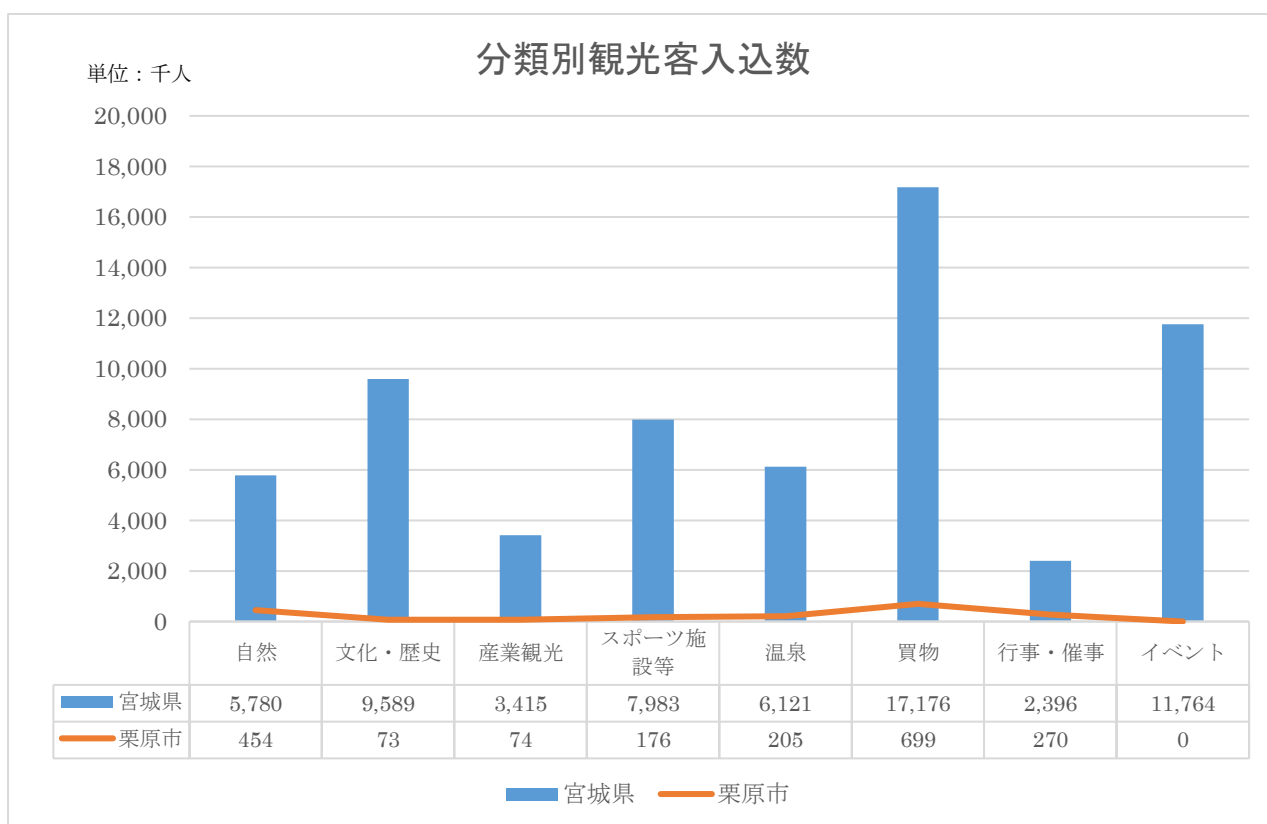
海水浴客入込数は前年比+136千人の226千人と震災前の入込数には及ばないが回復基調にある。

栗原市の季節別観光客入込数は前年と比べ、年間を通して増加した。増減数は春季+2千人、夏季+23千人、秋季+32千人、冬季+19千人となっている。

年間入込数を割合で見ると春季は23.0% (△0.7)、夏季は28.5% (+0.1)、秋季は29.8% (+0.5)、冬季は18.7% (+0.2) となっている。

仙台圏域を除いた宮城県各地区では通年の中で冬季の入込数が落ちる傾向にあるが、栗原市の冬季観光客入込数の構成比を比べると特に低い結果となっている。

### ③分類別観光客入込数



宮城県の分類別観光客入込数は、前年同様「買物」が最も多く 17,176 千人の入込があり、前年比+1,717 千人と前年に続き大きく増加した。特に石巻圏域では前年比+1,129 千人と大きく伸びている。増加要因としては、観光キャンペーンの成果、観光集客施設の新たなオープンと考えられる。

次いで「イベント」が 11,764 千人で前年比△624 千人と減少、「文化・歴史」が 9,589 千人で前年比+439 千人と増加した。

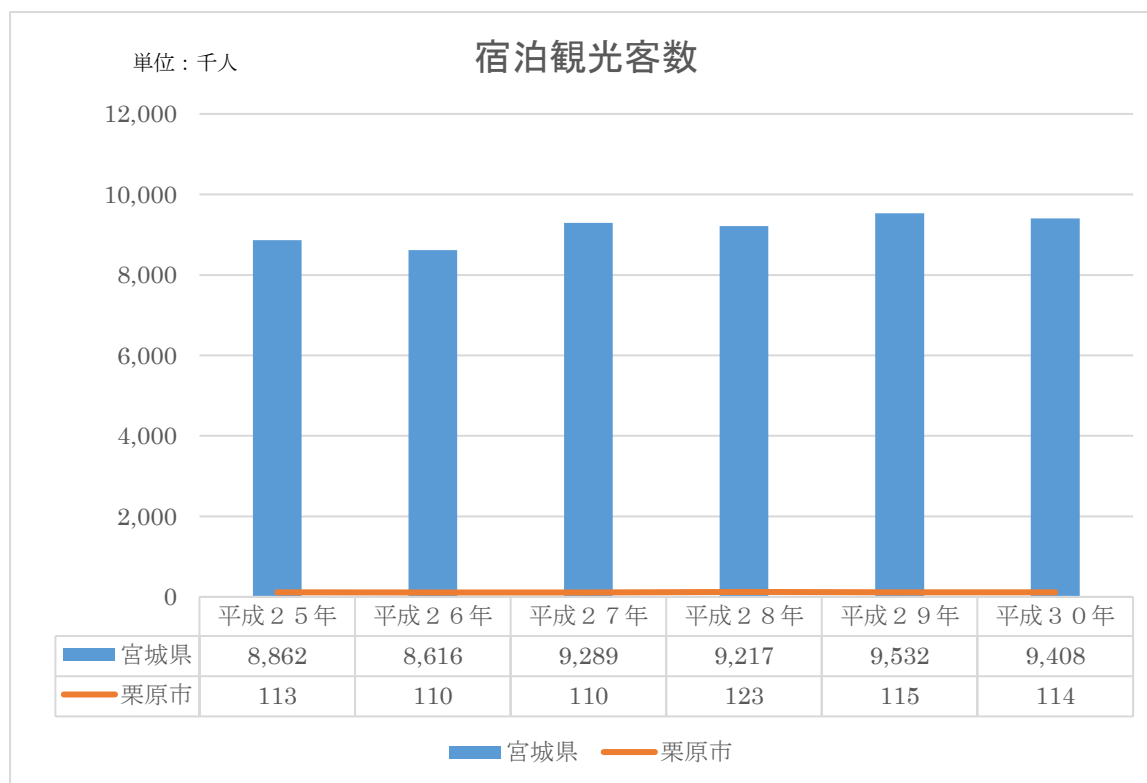
前年に対して「自然」、「文化・歴史」、「スポーツ施設等」、「買物」の項目で観光客入込数が増加した。

栗原市の分類別観光客入込数は宮城県と同様に「買物」が最も多く 699 千人の入込があり、前年比+60 千人と増加している。

次いで「自然」が 454 千人で前年比+45 千人、「行事・催事」は 270 千人で前年比+0 千人と増減なし。前年同様、上位 3 項目で栗原市の観光客入込数の 70%以上を占めている。他には「スポーツ施設等」で前年より増加となった。

栗原圏域の特徴はその他圏域と比べ、「自然」が占める割合が特に高い地区である。

## ④宿泊観光客数

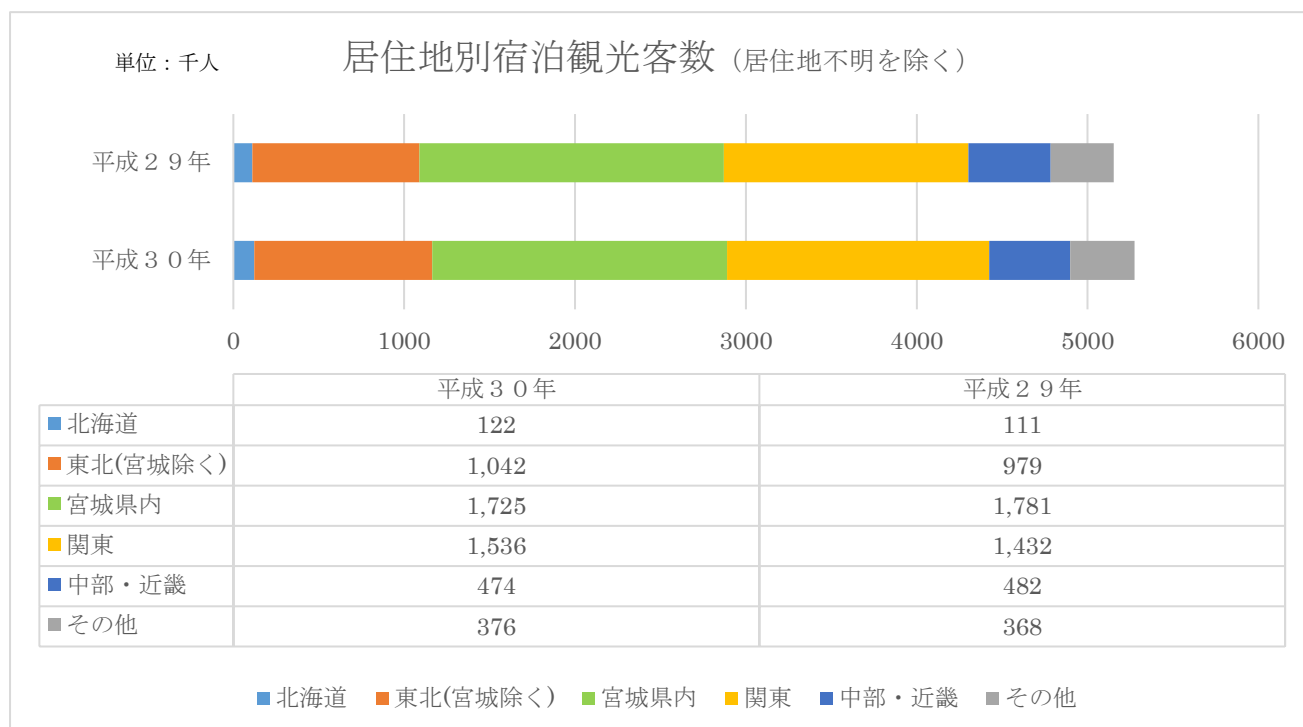


宮城県の宿泊観光客数は東日本大震災の復興需要もあり増加傾向が続き、復興需要が落ち着いてきた平成25年から一時減少したものの、平成27年は大型コンサートや「観光王国みやぎ旅行割引」等の影響から大きく増加、続く平成28年は僅かに減少したが、平成29年は増加に転じ、過去最高を更新した。

平成30年度は蔵王山火口周辺警報の影響や前年開催された大型イベントの反動減などにより前年比-124千人と減少したが、いまだ高い水準を保っている。前年より入込数が増加した地区は、阿武隈溪谷、旧仙台市、南三陸海岸の3地区であった。

栗原市は宿泊施設のリニューアル工事の影響等により、前年比△1千人の114千人であった。

## ⑤居住地別宿泊観光客数



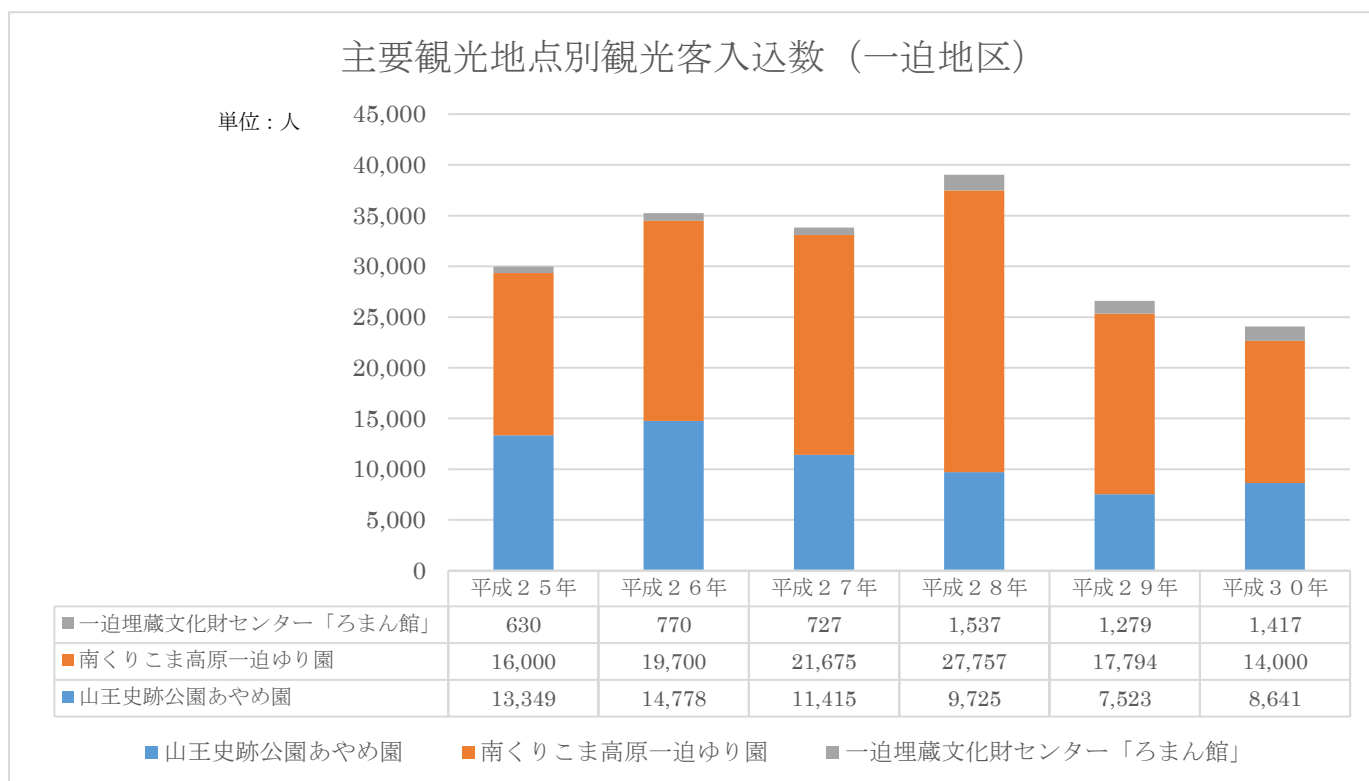
居住地別宿泊観光客数は前年同様、「宮城県内」、「関東」、「東北（宮城除く）」の順に客数が多く、上記3地域の合計で全体の8割以上を占めている。

「宮城県内」は前年比△56千人、「関東」は前年比+104千人、「東北（宮城除く）」は前年比+63千人となっている。

前年と比べ増加した地域は、「北海道」、「東北（宮城除く）」、「関東」、「その他」となった。

## ⑥主要観光地点別観光客入込数

### 【一迫地区】



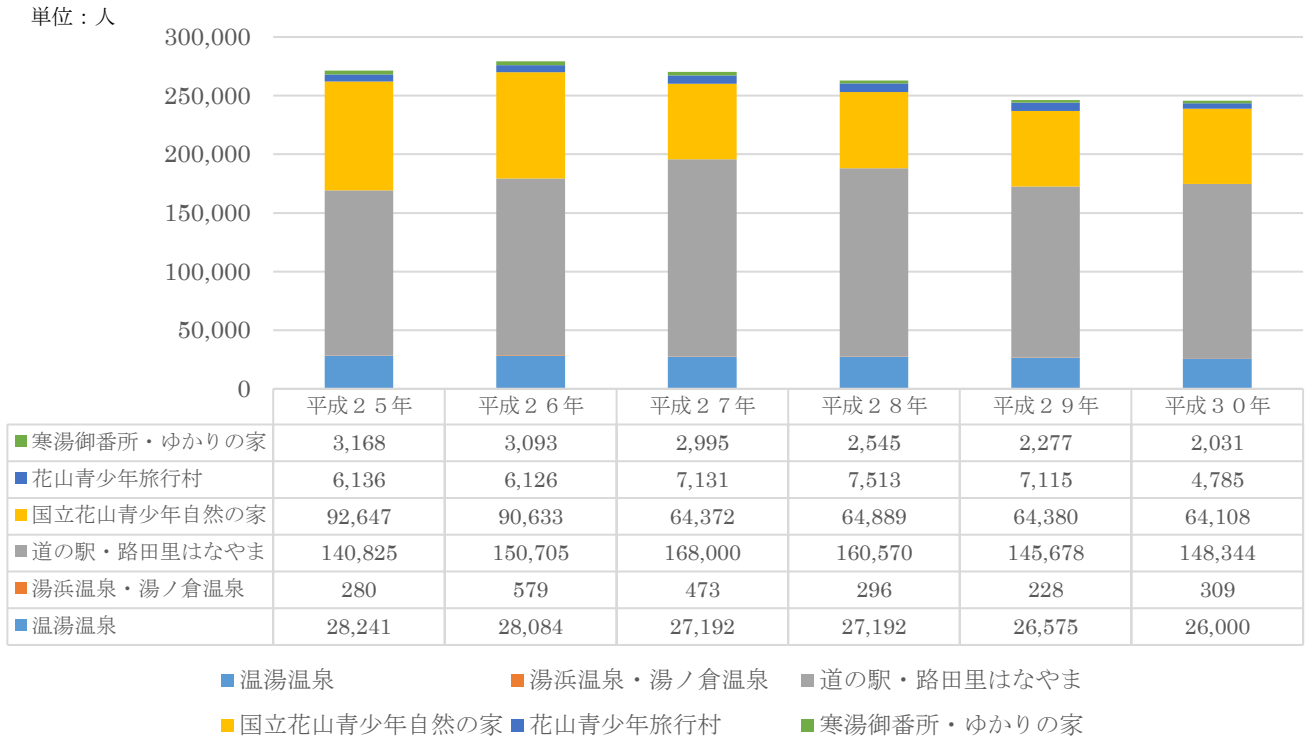
一迫地区の平成30年の主要観光地点別観光客入込数は「一迫埋蔵文化財センターろまん館」、「南くりこま高原一迫ゆり園」、「山王史跡公園あやめ園」の3地点合計で23,920人（前年比△2,676人）であり、「南くりこま高原一迫ゆり園」を除き、平成29年の観光客入込数より増加した。

詳細として、「一迫埋蔵文化財センターろまん館」の観光客入込数は1,417人で前年比+138人、「南くりこま高原一迫ゆり園」は14,000人で前年比△3,794人、「山王史跡公園あやめ園」は8,641人で前年比+1,118人となっている。



## 【花山地区】

主要観光地点別観光客入込数（花山地区）



花山地区の主要観光地点別観光客入込数は合計で245,577人（前年比△676人）と減少が続いている。

最も観光客入込数が多い地点は前年同様「道の駅・路田里はなやま」で148,344人（前年比+2,666人）、次いで「国立花山青少年自然の家」が64,108人（前年比△272人）、「温湯温泉」が26,000人（前年比△575人）、「花山青少年旅行村」が4,785人（前年比△2,330人）、「寒湯御番所・ゆかりの家」が2,031人（前年比△246人）、「湯浜温泉・湯ノ倉温泉」が309人（前年比+81人）となっており、多くの地点において前年の観光客入込数より減少している。

## 【栗原市全域】

### ①平成30年度栗原市全域主要観光地点別観光客入込数（上位5地点）

	観光地点	H30年入込数	対前年増減数
1	栗駒山・イワカガミ平	163,450 人	+12,040 人
2	道の駅・路田里はなやま	148,344 人	+2,666 人
3	金成温泉金成延年閣	107,880 人	△3,638 人
4	栗原市細倉マインパーク	71,760 人	+15,530 人
5	国立花山青少年自然の家	64,108 人	△272 人

栗原市の主要観光地点別観光客入込数は 716,503 人で前年比△13,632 人であり、その内一迫地区は 3.3%（前年比△0.3%）、花山地区は 34.2%（前年比+0.5%）を占めている。

栗原市内主要観光地点において、前年に対して観光客入込数が増加した主要観光地点は「栗原市細倉マインパーク」（+15,530 人）、「栗駒山・いわかがみ平」（+12,040 人）、「道の駅路田里はなやま」（+2,666 人）、「あぐりっこ金成」（+1,576 人）、「山王史跡公園あやめ園」（+1,118 人）、「愛藍人・文字」（+624 人）、「一迫埋蔵文化財センターろまん館」（+138 人）、「湯浜温泉」（+81 人）となっている。

また、「栗原市細倉マインパーク」の入込数が「国立花山青少年自然の家」を抜き、順位を上げている。

平成30年の主要観光地点別観光客入込数は減少したものの、好天に恵まれたこともあり栗原圏域の観光客入込数は増加している。

市内の主要観光地点において花山地区が占める割合は増加したものの、観光客入込数は減少傾向であり、今後は、一迫・花山両地区の魅力を活かし、更なる誘客拡大に向けた取り組みを行っていくことが必要である。